

6681

市口年所中、法裁に事係る友。
特、物置ありし申出たり。
此の上層也。

第六百十八回

特設師團之原
格准列「兵馬御制」
格重兵隊ノ

特設師團ノ原
格准列「兵馬御制」
格重兵隊ノ

第九百一十回

書及特設師團共、工兵ノ格准列、
兵馬御制ノ

1893

1894 閣 第 二 〇

房官臣犬		課局務主		證認濟裁決		大臣		件		番受	
了結	領受	出提	領受	號番				名	號領		
大正 7 年 十月 十五日	大正 7 年 十月 十日	大正 7 年 十月 十日	大正 7 年 十月 十日	軍務部 受 領				第三十九師及第一師步兵及相重步兵為首章之件	第六〇九號		
覽	後行	決行	帶	連	局長	主務	參事官	次官	高級	副官	主務
長	局	局	長	局							
長	課	課	長	課	課長	主務					
					課員	主務					
					者記筆案審						

連帶 課名 步兵、砲兵、工兵、銃砲、暴徒

11. 6 兵工

決行後回 發課名

九七號

1898

2681

僅に其旨上り可者。其方、直初に始り、其旨
 程度より辨別するに要す。後者、他隊と異なり
 諸事、指し示すに要す。

ル第二第十八師團下工兵及輜重兵大隊ノ教育ニ關ス

其師團下工兵大隊ノ架橋教練及梱包積載並輜重兵大隊ノ馬教練及梱包積載ハ動員部隊ノ編制ニ適應セシムル爲軍隊教育令所定ノ内容中左ノ如ク實施スヘシ

工兵大隊

甲中隊ニ於ケル架橋及梱包積載ノ教育ハ軍隊教育令ニ據ル

一ノ外左ノ要領ニ依ルハシ
架橋ノ教練ハ別冊載式縦列材料使用法ニ準據シ
馱載

二ニ
適スル器材使用法ノ概要ヲ會得セシム
馱載ノ積載ノ概要ヲ會得セシム
第三章ノ規定ニ準據シ
通信器材及通信教育ニ於ケル

輓馱馬教練及梱包積載ハ軍隊教育令ニ據ルノ外左ノ要領ニ
輜重兵大隊

依ルヘシ

一、輜重兵ニ在リテハ軍隊教育令附表第十七中馱馬教練
 ハ其程度ヲ更ニ向上シテ其概要ヲ修得セシメ梱包及積載
 ハ梱包積載教範附録第三章ニ據リ第一年度第三期ニ於
 テ車載品ヲ馱載スル為メ教育ヲ併セ行フ
 ニ、輸卒ニ在リテハ馱馬教練ハ軍隊教育令所定ノモメニ據
 リ梱包積載ハ車載品ヲ馱載スル為メ概念ヲ併セ會得セシ
 ム

大正十一年 月 日

教育總監 秋山好古



第九第十師團下工兵及輜重兵大隊ノ教育ニ
關スル件訓令

其師團下工兵大隊ノ架橋教練及梱包積載並輜重兵大隊ノ馬教練及梱包積載ハ動員部ノ編制ニ適應セシムル爲軍隊教育令所定ノ内容中左ノ如ク實施スヘシ

一 架橋ノ教練ハ主トシテ刺舟馱載式架橋材料使用法ニ準

據ハ馱載ニ適スル器材ヲ以テ

二 梱包及積載ハ主トシテ梱包積載教範附録第三章ノ規定

ニ準據シ大行李器材馱載ニ適スル架橋器材及通信器材ヲ以テスルモノハ其概念ヲ會得セシムル爲ノ教育ヲ行ヒ現制式器材

一 輜重兵ニ在リテハ輜重兵大隊ノ教練ハ各個教練ノミニ止メ概テ

1902

1901

地衣類
各標本
一覽表

軍隊教育令所定ノ輓馬教練ノ程度ニ準シ主トシテ馱馬教

練ヲ行フハ梱包積載教範附録第三章ニ據リ主トシテ車載

品ヲ積載スル爲ノ教育ヲ行フハ各個教練ノ概要ヲ會得セシ

二 輸卒ニ在リテハ輓馬教練ハ更ニ其程度ヲ向上シ各種地形

ノ行進ヲ略々完全ニ其他ノ概要ヲ修得セシム

三 馱馬積載ノ梱包積載教範附録第三章ニ據リ主トシテ車

載品ヲ馱載スル爲ノ教育ヲ行フ

三 軍隊教育令附表第十九ニ據リ實施スヘキ檢閲事項中

兵率第二期末及輸卒ノ期末ニ於テハ左ノ如ク實施スヘシ

兵率第二期末

輸卒期末

馱馬教練及陣中勤務

小隊教練(輓馬ヲ除ク)乘馬教練、梱

包及積載

大正十一年 月 日

教育總監 秋山好古

至急

陸軍部第二〇一〇號

陸軍部第一三〇號

軍事部

輕機關銃及歩兵砲ノ支給數所定ノ達セサル場合

ニ於ケル歩騎兵隊教育ノ件照會

大正五年十一月一日 教育總監 秋山好吉

陸軍大臣 山梨半造 殿

軍隊教育令ノ改正ノ件ニ輕機關銃及歩兵砲ノ支給數所定ノ達セサル場合ニ於ケル歩騎兵隊ノ教育ニ關シ別紙ノ通訓令教育度異存無之候ハハ軍隊教育令改正ノ儀ト同時ニ可仰 允裁候也

陸軍



輕機關銃及歩兵砲ノ支給數所定ニ達セサル場
合ニ於ケル歩騎兵隊教育ノ件訓令

輕機關銃及歩兵砲ノ支給數所定ニ達セサル場合ニ於
ケル大正十二年度以降歩騎兵隊ノ教育ハ別ニ定メラ
レタルモノノ外左記要領ニ準據シ教育ヲ實施スヘシ

其一、歩兵輕機關銃

歩兵隊ニ若干挺ノ支給ヲ受ケ未タ中隊ニ支給セラ
ルニ至ラサル場合ニ於ケル兵卒ノ教育ハ凡テ小銃
手ニ對スルモノトシ輕機關銃ノ教育ハ主トシテ所要
ノ下士以上士官候補生竝ニ下士候補者ノ一部ニ對シテ
行ヒ併セテ初年兵若干名ニ該教育ヲ施スニトシ努ム
ルモノトス

此場合ニ於ケル輕機關銃射數手ノ實習ハ支給彈藥ヲ

顧慮シ被教育者ニ對シ適宜特別射撃ヲ實施セシムルモノトス

二 中隊ノ支給數所定ニ達セサルモ一挺以上支給ヲ受ケタル後ニ於ケル輕機關銃手ノ教育ハ軍隊令ニ準テスルモノトス

小銃手ニ對スル輕機關銃ノ教育ハ適宜其教育程度ヲ低下シ又ハ之カ教育人員ヲ減少スルコトヲ得

其二 騎兵輕機關銃

三 機關銃隊ノ支給數所定ニ充サル場合ニ於テハ銃隊内ニ於テ適宜分業ノ人員ヲ増減スルコトヲ得

其三 歩兵砲

四 歩兵隊ニ於テ未タ全ク歩兵砲ノ支給ヲ受ケサル場合ニ於ケル歩兵砲ノ教育ハ左ノ要領ニ依ルモノトス
1. 所定ノ機關銃手ト歩兵砲手トニ別テ歩兵砲手ニ

1907
2-1061

特別射撃予習會表及分業
人員之関ニテハ進テ達セラルル者

八狙撃手砲及輕迫撃砲ヲ用ヒ當該砲ニ對スル教育ヲ行フ

○ 師團ニ支給セラレタル平射步兵砲ヲ以テ主トシテ所要ノ下士以上ニ對シ教育ヲ行ヒ併セテ步兵砲手ニ對シ成ルヘク之カ教育ヲ施スコトヲ努ムルモノトス

五 步兵隊ニ平射步兵砲ヲ支給セラレタル後ニ於ケル步兵砲ノ教育ハ軍隊教育令ニ據ル但曲射步兵砲未支給ノ場ニ於テハ依然輕迫撃砲ノ教育ヲ行フ外前項平射步兵砲ノ教育要領ニ準テスルモノトス

大正十一年 月 日

教育總監 秋山 好古

師團長

殿

教育總監部 庶務課 第一四五五號

陸軍省 第二〇八號 共

第六第九第十及第十八師團下工兵及輜重兵大隊ノ教育
茲輕機關銃及歩兵砲ノ支給數所定ニ達セサル場合ニ於
ケル歩騎兵隊教育ニ關スル儀 允許ノ件 通牒

大正拾壹年十二月拾壹日

教育總監部庶務課長 大村有

陸軍省副官 松木直亮 殿

本月一日教廣第一三七九號及同一三八〇號ヲ以テ總
監ヨリ大臣へ照會相成候首題ノ件 允許
相成候條承知相成度候也

陸軍

(納村島)